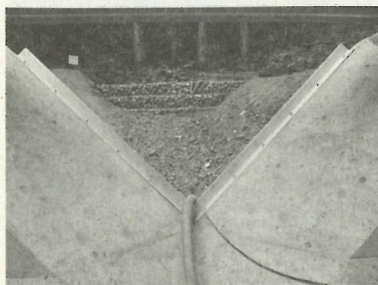


## 森林の水源涵養機能調査研究

石川県林業試験場の経営展示林の沢に水量観測堰が完成し、森林からの水量を継続的に観測し、森林の水源涵養機能の研究を進めていくことになりました。これは、石川県立大学等との共同で行われる「農業用水を核とした水循環健全化調査研究」の一環で、研究の背景・目的・内容は次の通りです。



森林から水量を計測する  
堰(建設中)

対策② 平野部  
におけ  
る水田  
農業を  
中心と  
した農  
業用排  
水の水

白山の森林から供給される水は、農業・水産業・工業・住民の生活に豊かな恵みをもたらせてくれます。しかし、地球温暖化による少雪の影響など、水源地の環境や水の利用の仕方も変化してゆくことが予想されています。そこで、①森林からの水量・水質の現状と変化及びその保全



森林内に降る雨量の観測

量・水  
質の現  
状と変  
化③森  
林部か  
ら平野  
部まで  
の地表  
水、地

下水の現状と水質・水量の変化について調査・研究します。これにより、地域関係者が一体となった地表水・地下水の保全対策と将来の健全な水利用のあり方を提言します。

この一連の研究の中で、林業試験場は、場内の試験林において、森林に降った雨がどれくらい・どのようにして、下流域に供給されていくかを、実際に長期間、林内の雨量や沢に流出する水量を観測して明らかにしていきます。このように、森林の水源涵養機能についてのデータを集積し、より機能の高い森林育成につなげていきたいと考えています。

(林業試験場)

## この人に聞く

No.40

### 「304水芭蕉会」から情報発信



金沢市東原町 森 潔 さん

地域の農林産物の生産拡大のためにさまざまな活動を行っている「304水芭蕉会」会長の森さんにお話をお聞きしました。

森さんは、東原地区の山林所有者であるとともに農家でもあり、町の子どもたちに森や田んぼの恵みを体験させる取り組みを行っておられます。

会の名前になっている「304」とは、国道304号線、「水芭蕉」は、東原町にミズバショウの名所があることからきており、三谷地区の東原、竹又、清水谷の三町から情報発信し、里山体験をしてもらおうとつけられたものです。

会の活動は、「炭焼き体験」「森の恵み体験教室」「樹木、野草の探索ウォーク」きのこ植菌体験」で、最近は参加者が増えており、自然や環境に関心がある人が多くなったと実感しているそうです。

また、毎週日曜の朝八時から「日曜朝市」を開催しており、朝採れの新鮮野菜や里山体験で収穫したきのこや木炭も販売しています。

近年は、「食の安全」の影響で人気があるのは無農薬野菜ですが、季節の山菜も人気で、今はナメコがすぐに売り切れるそうです。

さて、森さんは、東原県行造林地の所有者の一人でもあり、小さい頃は親に連れられて山の下刈りによく行ったそうです。

そのおかげで、今でも山の境界は何となくわかることですが、これから世代交代して、自分の息子や孫に正しい山の境界を教えられるか不安であるとのことでした。これは、林業に携わるもの共通の悩みと言えます。

しかし、森さんのように山に関心を持ってもらおうという地道な取り組みを続けることが大事だと感じました。

これからもどんどん里山の恵みをPRしていただきたいものです。なお、森さんの名刺には、「四季折々の里東原町」百姓 森 潔 と書いてあります。

※304水芭蕉会のHPアドレスは、  
<http://www.page.sannet.ne.jp/kkita/>  
ですので、アクセスしてみてください。

(県央農林総合事務所森林部林業振興課)